

手にメモする人必見、ウェアラブルメモ「wemo」今秋登場 バンドタイプとシールタイプで、状況に応じて使い分け

(株)コスモテック

手や腕にメモする方に朗報だ。腕に貼って、あるいはリストバンドのように手首に巻いて使うウェアラブルメモ「wemo」がこの秋登場する。開発したのは、機能性フィルムを開発をはじめ、ラミネート、ダイカット加工を手掛ける(株)コスモテック(高見澤友伸代表、東京都立川市錦町5-5-35、TEL.042-526-1411、<http://www.cosmotec.ne.jp/>)。wemoにはバンドタイプとシールタイプがあり、メモシールを肌に直接貼って書き込むシールタイプには、同社が特許を保有する肌用感圧型転写シール技術が活用されており、水なしで簡単に貼り付けられ、肌へ書き込むのと同じような感覚で文字が書ける。医療現場の看護師をはじめ、様々な現場で働くワーカー目線でデザインされており、目盛り付きタイプやメモを書き込んだシールを剥がしてノートに貼れるタイプのものもある。もちろん仕事以外のシーンでも活用できる。7月に開催された第28回国際 文具・紙製品展ISOTにて披露され、多くの来場者から注目を集めていた。

(戸田由馨)

式で、水を使わずにその場で貼り付けられ、特許も取得しています」と新規事業部の下山卓紀氏は話す。ファッションアイテムやイベント向けグッズ、キャラクターグッズ、ファンデーションテープなどでの採用実績がある。例えば、星野リゾートの高級温泉旅館では2016年4月から、入浴時に小さなタトゥーを隠すための肌色のシール(タトゥーカバーシール)を導入しているが、ここで採用されているものが同社の肌用感圧型転写シールだ。

■水を使わない“肌用転写シール技術”を応用

液晶タッチパネル等の電子機器向けに、粘着テープや保護フィルムなどの機能性フィルムを開発・製造しているコスモテックは2016年、東京都内の中小企業が持つ技術や素材をテーマに対して、デザイナーが新たな用途の開発などを提案するコンペ「東京ビジネスデザインアワード」に、水を使わずに肌へ簡単に貼ることができる“肌用感圧型転写シール技術”をエントリーした。そこでデザイナーから提案されたテーマの1つが「wemo」の大元となる「肌に貼って直接書けるメモシール」だった。同社はこの提案で協働することに決め、今年1月には同テーマで優秀賞を受賞。2月から商品化に向けて動き出したという。

同社が特許を有する肌用感圧型転写シール(いわゆるタトゥーシール)は厚み20~40μm程度(シールのみ、セパレーター・PET台紙は除く)で、

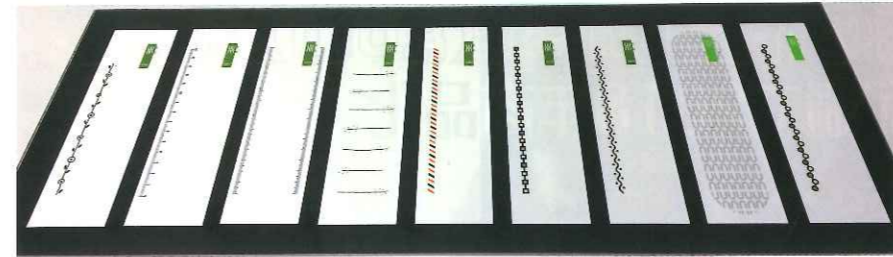
セパレーター/粘着層(アクリル系樹脂)/スクリーン印刷層(8~10μm程度)/クリア層(ウレタン系樹脂)/PET台紙という構成。「一般的なタトゥーシールは水転写が殆どで、水で濡らして転写させますが、弊社は感圧

■書き込んだ後は剥がしてノートにも貼れる

wemoには「消せる」「貼れる」「隠せる」の3タイプがある。肌用感圧型転写シール技術を応用し、メモに特化した書き心地を追求したものが「隠せる」



反射リストバンドのように手首に巻いて使うシリコンバンドタイプ。バンド表面に、専用の薄いシート(直接貼れるシールタイプのものとは異なる)を貼って文字を書き込む「貼れる」タイプが左の3つ。直接バンドに文字を書いてしまうと消すことはできない。メモシールを剥がして、日報やノート、壁、机などに貼り付けられる。一方、右の4つは直接書き込んで、消しゴムで消す「消せる」タイプ。目盛りや罫線が印刷されているものもある



肌に直接貼れるシールタイプの「隠せる」。水に濡れても剥がれにくいですが、切っ掛けを作れば簡単に剥がすことができる

タイプ。シール厚みは約20μm。サイズはW45×H190mm。構成は肌用感圧型転写シールと同じだ。「シールは肌の伸縮に追従し、貼っているという感覚なく使用できます。長期の連続使用はおすすめしていませんが約1週間は剥がれません」とのこと。

「貼れる」タイプは、シリコンバンドに専用シールを貼って、そこにメモを書き込む。シリコンが持つ素材の性質から、そのままの状態では専用シールを貼ることができないため、シールとの接着性向上を目的に、バンド表面の材質を変えている。「バンドに専用

シールを貼って使用する「貼れる」タイプは、メモを書いて、書き終わった後に剥がしてノートなどに貼ることもできます。医療現場では患者のデータを記録しますが、書き込んだメモを日報にそのまま貼り付けて使用すれば、転記の際の転記ミスや漏れを防ぎ、効率向上に役立ちます」と下山氏は説明する。

「消せる」タイプは、シリコンバンドにボールペンで直接書き込んで使う。メモは消しゴムで擦れば簡単に消すことができる。サイズはW45×D2×H238mm。

そもそも、wemoの誕生は「肌に直



「消せる」タイプのシリコンバンドに、ボールペンで書き込んだ文字は、消しゴムで擦れば簡単に消せる

接メモ書きをしている看護師を目にしたこと」に始まる。そのため傷の大きさや患者に使用しているチューブなどの長さを測るために看護師が携帯しているメジャーやスケールに着目し、目盛りが記載されたタイプもある。現在、今秋の発売に向け、最終設計および販路を詰めているという。

※仕様や種類は最終設計前段階のものであり、発売時には変更する場合がある。

◆段ボール製ロボ、プログラミングは小学生でもできる

2020年に小学校でプログラミング教育が必修化になることを受けて、プログラミング関連玩具・書籍、学習塾など、プログラミング教育関連市場が活況を呈している。今年5月、東京ビッグサイトにて開催された「教育ITソリューションEXPO(EDIX)」においても、ITを活用した次世代の教育・学習ツールの出展が目立った。中でも、(株)ワイズインテグレーション(東京都渋谷区千駄ヶ谷4-23-5、TEL.03-6864-1163、<https://hello-sovigo.com/>)は、(株)ナチュラルスタイル(福



ロボットは段ボール製。自由に模様を描けば、世界に1つのオリジナル作品が作れる

井県福井市和田東1-222、TEL.0776-58-3380、<http://na-s.jp/>)と共同開発した、段ボール製ロボットを動かす小中学生向けプログラミング教材「ソビーゴ」子どもロボットプログラミング

ング」などを出品。愛らしい段ボール製ロボが来場者の注目を集めていた。

ロボットは段ボール製なので、細かなパーツはなく工作感覚で組み立てられ、誰にでも親しみやすい。組み立てたロボットに模様を描く過程は表現力や感性を育む体験にもなる。「IchigoJam BASIC」という初心者向けプログラミングを使用し、自身でコードを打ち込むことで、完成したロボットの腕を動かしたり、走らせたりして、自然にプログラミングを学べるような仕組みになっている。子供のみならず、大人も童心に返って楽しめそうだ。

小中学校や自然科学教室での体験教室や親子体験イベントなどでの採用実績がある。

主なセット内容は、プログラミングパソコン「IchigoJam」、こどもモーターボード「MapleSyrup」、ロボット段ボールパーツ、タイヤ、USBキーボード、映像ケーブル、テキスト。電源の単3形乾電池4本は別売。店頭価格は税別16,500円。ソビーゴ オフィシャルECサイト、全国のツクモ店舗にて販売している。

(戸田由馨)